

特集

感染症対策の変化と進化

コロナがもたらしたもの

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、2019 年の中国・武漢市でのアウトブレイクから間もなく 2 年となる現在でもパンデミックの終息が見通せず、医療や公衆衛生などへの影響はもちろん、その社会・経済的なマイナス面の影響 (negative impacts) が甚大です。

このような中、COVID-19 は、インフルエンザをはじめとするほかの感染症の流行にも大きな影響を及ぼしています。例えば、COVID-19 のパンデミックに伴い季節性インフルエンザは、先行して冬季を迎えた南半球だけでなく、北半球の国々でも記録的な低流行で終わりました。わが国でも、毎年夏に大きな流行を見せる手足口病やヘルパンギーナ等の報告例が激減するなど、COVID-19 が他の感染症の流行に大きな影響を及ぼしたとされています。その要因としては、COVID-19 対策としてのマスク着用の徹底や身体的距離の確保、旅行制限などの公衆衛生的介入 (非薬理学的介入) が、他の感染症の予防にも効果的に作用したほか、いわゆるウイルス干渉などの可能性も指摘されています。

また、COVID-19 のパンデミックを克服するためのさまざまな取り組みや研究は、感染症に対する医療体制の見直しはもちろん、集団感染対策 (クラスター対策) やサーベイランスの見直し、ウイルスの感染伝播様式の再検証、新たな検査・診断技術の開発促進、および災害時の感染症危機管理 (災害と感染症の複合災害を視野に入れた危機管理) の強化など、感染症対策の変化と進化に大きく寄与しています。

そこで本号では、COVID-19 パンデミックとその対策により、感染症の流行や感染症対策がどのように変化し、どのように進化しているかに焦点を当てて、関連分野の専門家の方々から解説や提言などを頂きます。

(「公衆衛生」編集委員会)